

## 2016 年行事予定

- 9月1日(木)～ 第 63 回日本臨床検査医学  
4日(日) 会学術集会  
9月1日(木) 第 2 回全国幹事会、  
第 49 回総会・講演会  
9月3日(土) 共催シンポジウム、  
共催ワークショップ  
11月11日(金) 臨床検査の日(日本臨床衛  
生検査技師会：全国検査  
と健康展)  
12月17日(土) 第 2 回常任幹事会

## 巻 頭 言

日本臨床検査専門医会  
副会長 東條尚子

### 医療ドラマと臨床検査専門医

医療を題材としたドラマはいくつもある。視聴率の高かった「白い巨塔」、  
「Doctor-X ～外科医・大門未知子」は外科医、「JIN-仁-」は脳外科医が主  
人公である。大方は、腕の立つ外科医や救命救急医、看護師などが主人公であ  
り、中央診療部門の医師が主役になることはほとんどないし、そもそも登場し  
てこない。臨床検査技師が登場するドラマも多くはない。そんな中、平成 28  
年の 1 月から 3 月、病理医を主人公としたドラマ「フラジャイル」が放送され  
た。スーパー臨床検査技師も登場する。放射線診断医や検査部長？も出てくる。  
恋物語ではなく、エンターテイメント的要素を盛り込んだ医療現場の状況が描  
かれたドラマである。臨床検査医の仕事を連想させるシーンもあったので、検  
査関連の医師が集まった時には大いに話題になった。私の勤務する病院の臨床  
検査科でも、放送された翌日はドラマの話題でもちきりになっていた。普段、  
医療ドラマが話題になることはないが、同じ中央診療部門の設定であること、  
臨床検査技師が仕事をしているシーンが多いことが興味を引いていたのであ  
らう。臨床検査技師の一挙一動に話題が尽きなかった。

医療ドラマではないが、「科捜研の女」で京都府警・科捜研の榊マリコを演  
じている沢口靖子が、昨年秋、「京都府警のイメージアップに貢献した」とし  
て表彰された。ドラマがスタートした平成 11 年には京都府警科捜研に女性研  
究員はいなかったが、現在では 6 人の女性研究員が科学捜査に従事しており、  
「刑事部門における女性職員の活躍の拡大に貢献」したことも評価のひとつだ。  
ドラマの影響は大きく女性の応募が多くなった。特に榊マリコが担当する“法  
医”への応募は女性が多くなったと京都府警察人事部長がコメントしている。

いよいよ新専門医制度が始まる。臨床検査専門医は人数が少ないので、多く  
の医師の卵に興味を持ってもらい、臨床検査専門医を志す医師をもっと増やさ  
なければならない。認知度が低い点は何とかなければならぬ大きな課題で  
ある。もし臨床検査専門医を題材にしたドラマが、イケメン俳優を主演にして  
放映されたら・・・そして、内科や外科の偉い先生や病院長に「なるほど」、  
「おそれいりました」と言わせる痛快な展開だったら・・・ドラマを見た若者  
の中から、将来、高い志をもった希望者が増えるのではないかとあらぬ期待を  
してしまう。

### 【目次】

p.1	巻頭言：医療ドラマと臨床検査専門医
p.2	事務局からのお知らせ、日本臨床検査 専門医会ネットワーク稼働のお知らせ、 平成 28 年度第一回総会報告
p.3	平成 27 年度収支決算および平成 28 年 度補正予算案(表)、第 6 回生涯教育講 演会報告、第 26 回日本臨床検査専門医 会春季大会報告、第 85 回教育セミナー 報告、第 33 回臨床検査振興セミナーに ついて、第 48 回日本臨床検査専門医会 総会・講演会のお知らせ、第 63 回日本 臨床検査医学会学術集会共催行事のお 知らせ
p.4	「全国検査と健康展」協力について、 平成 28 年度行事予定、平成 28 年度会 費振込みのお願い、住所変更・所属変 更に伴う事務局への通知について、副 会長挨拶：臨床検査部を診断部門とし て活用してもらうために
p.5	会員の声：臨床検査専門医試験を受験 して、新人臨床検査専門医として
p.6	会員の声：基礎と臨床の架け橋を目指 して、編集後記

### 会員の皆様へ

広く「会員の声」を募集しております！  
テーマは自由、文字数も自由です。  
是非ともご意見をお寄せください。

#### 【テーマの例】

- ・自己紹介や検査室のご紹介
- ・様々な技術・ご経験のご紹介

投稿方法：日本臨床検査専門医会事務局  
まで、メールにてお送りください。  
E-mail: [senmon-i@jaclp.org](mailto:senmon-i@jaclp.org)

ご寄稿をお待ち申し上げます。

JACLaP NEWS 編集室 増田 亜希子(編集主幹)

〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学医学部附属病院 検査部内

TEL: 03-3815-5411 内線 37477/Fax: 03-5800-8806

E-mail: [amasuda-ky@umin.ac.jp](mailto:amasuda-ky@umin.ac.jp)

## 【事務局からのお知らせ】

## 《会員動向》

2016年7月5日現在 会員数 764名、専門医 593名

## 《新入会員》(敬称略)

- 松井 啓隆：熊本大学大学院生命科学研究部  
臨床病態解析学分野
- 越中 秀和：大和市立病院
- 柳原 希美：札幌医科大学医学部  
感染制御・臨床検査医学講座
- 菅野 宙子：東京女子医科大学病院
- 竹下 享典：名古屋大学医学部附属病院検査部
- 佐久間貴彦：愛知厚生連渥美病院臨床検査科
- 藍 智彦：順天堂大学臨床検査医学
- 成瀬 寛之：藤田保健衛生大学臨床検査科
- 山下 明子：半田市立半田病院臨床検査科
- 大山 典子：東葛病院検査診断科
- 近澤 悠志：東京医科大学臨床検査分野
- 横井 左奈：千葉県がんセンター遺伝子診断部
- 松浦 元一：徳島大学病院検査部
- 西川 真子：東京大学医学部附属病院検査部
- 横山 直之：帝京大学医学部内科
- 永妻 晶子：国立がん研究センター東病院  
先端医療開発センター
- 矢嶋 信久：八戸市立市民病院臨床検査科
- 蔵野 信：東京大学医学部附属病院検査部
- 後藤 和人：九州大学病院検査部
- 高野 勝弘：山梨大学医学部臨床検査医学
- 海老原文：がん研究会有明病院
- 清水 利昭：鹿児島大学大学院歯学総合研究科  
血管代謝病態解析学
- 上養 義典：慶應義塾大学医学部臨床検査医学教室
- 藤原 亨：東北大学病院血液免疫科
- 川口 将也：医療法人財団俊陽会古川病院
- 杉原 匡美：順天堂大学医学部臨床検査医学講座
- 高城 一郎：宮崎大学医学部附属病院感染制御部
- 政木 隆博：東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座
- 中村 丈洋：香川県立保健医療大学臨床検査学科

## 《所属・その他変更》(敬称略)

- 高橋伸一郎：旧 北里大学医療衛生学部血液学  
新 東北医科薬科大学病院臨床検査部  
教授・検査部長
- 山鳥 一郎：旧 広島市立広島市民病院  
病理診断科・臨床検査部  
新 福山市医師会健康支援センター 検査部長
- 中原 一彦：旧 東レ株式会社本社医務室、  
(独)大学評価・学位授与機構  
新 東レ株式会社本社医務室
- 千葉 貴人：旧 Vanderbilt University  
新 飯塚病院 皮膚科
- 狩野 有作：旧 北里大学医学部臨床検査診断学 准教授  
新 北里大学医学部臨床検査診断学 教授
- 越川 卓：旧 愛知県立大学看護学部  
新 修文大学看護学部
- 真船 直樹：旧 酪農学園大学酪農学部食品科学科  
栄養学研究室  
新 北海道大学病院検査・輸血部

- 新谷 憲治：旧 公立学校共済組合中国中央病院  
新 岡山大学附属病院血液内科
- 白石 泰三：旧 三重大学医学部病理学第二講座  
新 桑名市総合医療センター 副理事長
- 大西 宏明：旧 杏林大学医学部臨床検査医学 准教授  
新 杏林大学医学部臨床検査医学 教授  
杏林大学医学部付属病院臨床検査部 部長
- 堂本 英治：旧 防衛医科大学病院検査部  
新 一般財団法人 神奈川県警友会  
けいゆう病院病理診断科
- 白木 克哉：旧 三重大学大学院消化器内科学  
新 三重県立総合医療センター  
消化器内科 副院長
- 中山 宏文：旧 広島鉄道病院臨床検査室  
新 JR 広島病院 診療部臨床検査科  
(病理診断科)
- 松下 弘道：旧 東海大学医学部基礎診療学系臨床検査学  
新 国立研究開発法人  
国立がん研究センター中央病院  
病理・臨床検査科 医長

## 《退会会員》(敬称略)

- 下川 高賢：愛知三の丸病院
- 足立 史朗：市立豊中病院
- 山崎 朋子：九州中央病院
- 泉 美貴：東京医科大学医学部
- 高橋 伯夫：琵琶湖中央病院
- 関 邦彦：JR 東京総合病院
- 尾崎由基男：笛吹中央病院

## 《訃報》

- 大場 康寛 先生 2016年2月21日ご逝去(本会 名誉会員)
- 水野 昭 先生 2016年2月29日ご逝去

ご冥福をお祈り申し上げます。

## 【日本臨床検査専門医会ネットワーク稼働のお知らせ】

かねてより開発しておりました「日本臨床検査専門医会ネットワーク」は平成28年3月より正式稼働を開始しました。専門医会ホームページ左上のバナーよりご利用ください。なお、IDおよびパスワードを会員の方々に郵送いたしました。ご不明の点がございましたら事務局までお問い合わせください。

## 【平成28年度第一回総会報告】

第25回日本臨床検査専門医会春季大会時に平成28年度第一回総会が開催されました。

日時：平成28年3月26日(土)11:10~12:00  
場所：高知市文化プラザかるぼーと

## 審議事項

- 第一号議案：平成27年度決算について(別表)
- 第二号議案：第28回春季大会について
- 第三号議案：平成28年度補正予算について

第一号から第三号議案はすべて承認されました。第三号議案は本年度予算に専門医会ネットワーク開発経費残金および要覧発行代を追加するものです。(別表参照)  
また、平成30年度第28回春季大会大会長として信州大学医学部病態解析診断学 本田孝行教授が推薦され、満場一致で承認されました。

平成27年度収支決算および平成28年度補正予算案

項目	平成27年度予算	平成27年度決算	平成28年度予算	28年度補正予算案
収入欄				
入金				
会員会費	6,740,000	5,890,000	6,475,000	6,475,000
賛助会員会費・寄付金	4,000,000	3,900,000	4,000,000	4,000,000
小計	10,740,000	9,790,000	10,475,000	10,475,000
その他				
広告収入	400,000	131,566	200,000	200,000
教育セミナー参加費	400,000	320,000	350,000	350,000
生涯教育講演会参加費	100,000	230,000	100,000	100,000
振興セミナー参加費	100,000	132,000	100,000	100,000
利息	15,000	2,387	5,000	5,000
小計	1,015,000	815,953	755,000	755,000
入金合計	11,755,000	10,605,953	11,230,000	11,230,000
支出欄				
業務経費				
事務局雑費	150,000	104,254	150,000	150,000
通信費(事務局)	170,000	119,972	170,000	170,000
人件費	1,400,000	1,352,023	1,500,000	1,500,000
FAX使用料	60,000	56,678	60,000	60,000
事務所維持費	1,700,000	1,712,557	1,700,000	1,700,000
設備費	150,000	50,858	150,000	150,000
小計	3,630,000	3,396,342	3,730,000	3,730,000
事業経費				
印刷代	2,000,000	1,177,824	2,000,000	2,000,000
要覧印刷代	550,000	0	0	550,000
通信費	800,000	744,943	800,000	800,000
春季大会補助金	500,000	500,000	500,000	500,000
臨床検査振興セミナー費	850,000	999,891	950,000	950,000
教育セミナー費	750,000	510,594	750,000	750,000
会議費	1,000,000	1,040,402	1,000,000	1,000,000
交通費	70,000	86,015	70,000	70,000
宿泊費	20,000	18,000	20,000	20,000
原稿料	100,000	0	100,000	100,000
専門医ネットワーク開発費	2,376,000	2,052,000	0	864,000
専門医ネットワーク維持費	-	-	180,000	0
HP維持費	170,000	136,191	170,000	170,000
JCLS会費	50,000	50,000	50,000	50,000
WASPALM会費	55,000	56,896	60,000	60,000
臨床検査振興協議会	300,000	300,000	300,000	300,000
内保連	200,000	200,000	200,000	200,000
予備費	75,000	0	350,000	0
小計	9,866,000	7,872,756	7,500,000	8,384,000
出金合計	13,496,000	11,269,098	11,230,000	12,114,000
収支決算	-1,741,000	-663,145	0	-884,000
前年度繰越金		18,801,129		18,137,984
次年度繰越金		18,137,984		17,253,984

実施日時：平成28年5月22日(日)

実施場所：慶應義塾大学医学部

【第33回臨床検査振興セミナーについて】

第33回臨床検査振興セミナーは、以下の日程で開催されました。本年は診療報酬改定年に当たり、診療報酬改定について講演いただきました。90名を超える参加者があり、盛会裏に終了しました。

日時：平成28年7月15日(金) 14:00~17:00

会場：東京ガーデンパレス

<プログラム>

講演1(14:05~15:15)

「平成28年度診療報酬改定について

～臨床検査関係分野を踏まえて～」

座長：登 勉(日本臨床検査専門医会会長)

演者：小倉 央行(厚生労働省保険局医療課)

講演2(15:45~16:55)

「平成28年診療報酬改定～臨床検査専門医会の立場から」

座長：東條 尚子(日本臨床検査専門医会副会長)

演者：佐藤 尚武(順天堂東京江東高齢者医療センター)

【第48回日本臨床検査専門医会総会・講演会のお知らせ】

第48回日本臨床検査専門医会総会・講演会は第63回日本臨床検査医学会学術集会(神戸)時に以下の日程で開催されます。

開催日時：平成28年9月1日(木)

総会 13:30~14:00、講演会 14:00~15:00

会場：神戸国際会議場(第1会場)

講演会：演 題

「わが国の保険医療制度にみる専門医の意義

～臨床検査専門医がロールモデルになるために～」

演者：登 勉(日本臨床検査専門医会会長)

【第63回日本臨床検査医学会学術集会共催行事のお知らせ】

第63回日本臨床検査医学会学術集会での本会共催行事として以下の共催シンポジウムおよびワークショップが開催されます。共催ワークショップは昨年までの「臨床検査を学ぶ若手医師の集い」に替えて開催される医学生、研修医、臨床検査専門医を含む医師を対象とした企画です。奮ってご参加下さい。

<共催シンポジウム>

開催日時：平成28年9月3日(土) 8:45~10:45

会場：神戸ポートピアホテル(第16会場)

シンポジウム13

「新人専門医がいどむ“検査データの読み方”～

“熟年専門医”と“新人専門医”による日常検査のよみ方講座」

司会：本田孝行(信州大学)、米川修(聖隷浜松病院)

コメンテーター：松尾収二(天理医療大学)

回答者：浅香志穂(信州大学医学部附属病院臨床検査部)

井上貴子(名古屋市立大学病院中央検査部)

宇野直輝(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)

上岡樹生(高知大学医学部病態情報診断学講座)

辻 剛(神鋼記念病院膠原病内科)

<共催ワークショップ>

開催日時：平成28年9月3日(土)

10:40~11:40、13:10~14:10(2部構成)

会場：神戸国際会議場(A会場)

ワークショップ

「新専門医時代～臨床検査医学がアピールできること」

報告事項

1. 平成28・29年度役員について
2. 各種委員会報告
3. 全国検査と健康展(日本臨床衛生検査技師会)
4. 第49回日本臨床検査専門医会講演会
5. 第63回日本臨床検査医学会学術集会共催シンポジウム
6. 第27回春季大会について
7. 臨床検査専門医の英語表記について

【第6回生涯教育講演会報告】

第6回生涯教育講演会は平成28年3月25日(金)ホテル日航高知 旭ロイヤルにて開催されました。「生理検査室の安全管理・精度管理」について帝京大学医学部附属病院中央検査部 古川泰司先生に、「輸血検査室の診療支援と安全管理」について東京医科大学八王子医療センター 臨床検査医学科・輸血部 田中朝志先生にそれぞれご講演いただきました。多数の会員にご参加いただきました。

【第26回日本臨床検査専門医会春季大会報告】

第26回日本臨床検査専門医会春季大会は、高知大学医学部病態情報診断学教授 杉浦哲朗先生を大会長として平成28年3月25日(金)~26日(土)、高知市で開催され、145名の会員が参加されました。「臨床検査領域における質量分析技術の活用」についての特別講演をはじめ、病院運営と臨床検査、新専門医制度をテーマとして2つのシンポジウムが行われ、活発な討議が展開され、盛会のうちに終了しました。

【第85回教育セミナー報告】

平成28年度日本臨床検査専門医会第84回教育セミナーは下記の要領で開催されました。本年度は46名の会員が参加されました。各領域の基本的な知識・技術についてのレクチャーのほか、本年は昨年度臨床検査専門医試験に合格された先生方からも講演いただきました。

## 第一部 ポスターセッション

「臨床検査専門医のワークライフバランス」  
仕事、研究と育児など家庭生活との両立を考える。

## 第二部 グループディスカッション

「臨床検査専門医の生涯教育」  
女性医師を含む臨床検査医学を学ぶ若手へのサポートを含めた生涯教育を考える。

### 【「全国検査と健康展」協力について】

11月11日(金)「臨床検査の日」に合わせて開催される日本臨床衛生検査技師会主催「全国検査と健康展」で、本年度も「検査説明・健康相談」への協力を行います。本年度は11月12日奈良県奈良市をメイン会場として、11月を中心に各都道府県で開催予定です。本年度も多くの先生方のご協力をお願いいたします。

### 【平成28年度行事予定】

平成28年

9月1日(木)～4日(日)

第63回日本臨床検査医学会学術集会(神戸国際会議場)

9月1日 10:30～11:30 第2回全国幹事会

(神戸国際会議場第7会場)

9月1日 13:30～15:00 第49回日本臨床検査専門医会  
総会・講演会(同上、第1会場)

9月3日 8:45～10:45 共催シンポジウム  
(神戸ポートピアホテル第16会場)

9月3日 13:10～14:10 共催ワークショップ  
(神戸国際会議場A会場)

11月11日(金) 臨床検査の日

(日本臨床衛生検査技師会：全国検査と健康展)  
メイン会場奈良県奈良市(開催日11月12日)

12月17日(土) 第2回常任幹事会

(日本臨床検査専門医会事務局)

### 【平成28年度会費振込みのお願い】

平成28年度の会費振込用紙をお送りしましたので振込をお願い致します。尚、未納分のある会員の方々は合計額の振込をお願いします(納入状況は振込用紙に記載してあります)。

平成28年度年会費：10,000円

(平成28年1月1日現在、70歳以上の方は5,000円)

郵便振込み口座：00100-3-20509

日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振込み状況が不明な先生は、事務局までE-mailまたはFAXでお問い合わせください。

過去2年間会費を滞納している先生には、LabCP、JACLaP NEWS、要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

### 【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にともなって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所およびE-mail address等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAXあるいはE-mailでお送りください。

また、日本臨床検査専門医会ネットワークシステムでは会員情報を各自で編集可能ですが、変更した旨を事務局までメ

ールでご連絡下さい。

<連絡先>日本臨床検査専門医会 事務局

(水・土日祝祭日は休業日)

電話・FAX：03-3864-0804 アドレス：senmon-i@jacpl.org

### 【副会長挨拶】

#### 臨床検査部を診断部門として活用してもらうために

このたび、日本臨床検査専門医会(専門医会)副会長を拝命しました、信州大学の本田孝行です。専門医会の役員は初めてです。よろしく申し上げます。

登会長から教育担当ということで任命された自分では認識しています。日本臨床検査医学会(検査医学会)でも本年度から教育委員会委員長を仰せつかりました。この際だから、検査医学会と専門医会の教育会を合同でと考え、専門医会教育研修委員会委員長の米川先生と相談して、専門医会の教育研修委員の皆様には、検査医学会の教育委員もお引き受けいただきました。米川先生も私も検査結果に解釈(コメント)を付けて臨床に返却できれば、医療における臨床検査の価値は飛躍的に上がると考えています。そのためにどうすればよいか、教育という面で考えて行きたいと思っております。

臨床検査室が最低限果たさなければならない役割は、精度管理の行き届いた検査結果を必要な時に迅速に提供することです。したがって、今までの臨床検査には、“精度管理”、“必要な時”および“迅速”が求められてきました。この3項目が最も重要であることは未来永劫変わらないのですが、これらを忠実に実行しても、臨床検査部門が発展できる保障がありません。

世界中で最も頻回に行われている検査は、血算、生化学、凝固線溶、尿検査を含むルーチン検査です。しかし、臨床現場で検査結果が十分に活用されているとは言えません。臨床において検査データの解釈が難しいために活用されていなければ、臨床検査室(部)で検査データを利用しやすくし、臨床に提供すべきです。検査データ解釈は臨床医の仕事として何も行わないのは、臨床検査室の怠慢であり、医療に貢献するチャンスを失うことになります。臨床検査室が単に検査するだけでなく、検査データ解釈も仕事であると認識する時期にきています。

ルーチン検査を十分に解釈できれば、各臓器の病態および患者の全身状態を詳細に把握できます。比較的安価であるルーチン検査を経時的に行うことで、患者の状態をリアルタイムに把握できます。ルーチン検査を解釈する専門の検査医および検査技師が存在するよりも、すべての検査技師が行う基本業務となれば、臨床検査室の地位はゆるぎないものになると思っております。

ルーチン検査は診断するものではないといわれます。その通りです。しかし、病態が把握できれば診断できることもあり、少なくとも鑑別診断を挙げる根拠としなければなりません。現在の医療において、どうしても診断を意識せざるを得ません。診断するものではありませんが、診断から逃げてはいけません。矛盾しているようですが、現在の臨床検査全般に対して言えると思っております。診断および治療に寄与する臨床検査であらねばならないと思っております。

臨床検査室を診断部門として活用してもらうためにどのように教育すればよいか、教育研修委員会の皆様と模索していきたいと思っております。

(信州大学医学部病態解析診断学 本田孝行)

## 【会員の声】

### 臨床検査専門医試験を受験して

この度、平成 27 年度の臨床検査専門医のお仲間に加えていただくこととなりました青木智之と申します。私は平成 17 年に群馬大学医学部を卒業した後、県内の桐生厚生総合病院で 2 年の初期研修を行いました。内分泌・糖尿病内科医を志しておりましたが、研修先での内分泌・糖尿病内科の指導医であった森村匡志先生の勧めもあり、平成 19 年度より現在の所属先である群馬大学医学部検査部に所属させていただくこととなりました。同時に夜間大学院にも入学し、臨床検査医学講座教授の村上正巳先生の御指導のもと、臨床ならび研究に研鑽をつむこととなりました。

大学病院という施設の性質上、検査部では診療・研究・教育に従事しております。診療業務としては各部署のトラブル発生時の対応や採血室と生理機能検査室における急変時対応、未到着検体の確認、臨床検査技師作成のレポートの最終チェックなどを行っています。また、群馬大学では検査部外来を開設しており、初診患者の対応をはじめとする外来業務も行っています。外来では当初の希望であった甲状腺をはじめとする内分泌疾患、糖尿病診療についても修練を積むこともできました。研究面では甲状腺ホルモンの活性化機構とその役割について、動脈硬化との関連について研究を行っています。教育としては医学科の学生を中心に講義および実習指導を行っています。

今年の 3 月になんとか学位を取得することができ、余裕ができたのを機会に村上教授から「そろそろ検査専門医を受験したらどうか？」というお言葉を頂きました。合格した諸先輩方から平日頃より「検査専門医の試験は実技試験があるから難しいよ」と聞かされておりましたので、4 カ月弱ほどの準備期間でどうにかなるものなのか？、と非常に不安でした。そのようなこともあり、専門医試験受験はもう少し先にしようと考えていましたが、村上教授からの薦めに背中を押される形で、専門医試験に挑戦することを決意いたしました。先輩方から専門医会の教育セミナーは必ず受講しておくようご助言をいただきましたので、その日のうちに専門医会に入会希望を提出し、準備を開始いたしました。セミナーでいただいた資料等を中心に、有資格者の先輩方からの御助言も交えて筆記試験対策を行いました。また、忙しい業務の合間に、検査部及び輸血部の臨床検査技師の皆様が実技指導に時間を割いてくださいました。非常に恵まれた環境で受験の準備ができたと思います。その一方で、御助力いただいた方々のためにも、必ずや良い結果を出さねばと緊張感が高まりました。

試験は平成 27 年 8 月 1、2 日の両日東京大学で行われました。余裕をもって出発したつもりでしたが、大学の広さに構内で迷ってしまい真夏の炎天下の中 1 時間近く歩くこととなり、試験前から汗だくになってしまうというアクシデントもありましたが、無事時間内に到着し試験を受けることが出来ました。2 日目は実技試験が中心となりましたが、丸一日の長丁場で試験終了時には、疲労困憊してしまいました。試験は実技試験が大きなウエートを占めておりましたが、そのためのサンプルや資材の準備、当日の管理等、試験の準備及び施行に携わった方々の苦労は、筆記試験のみを考査対象とする試験とは比較にならないほど大きかったのではないかと思います。

現在の一般的な診療現場においては、検査のオーダー→実際に検査→結果の報告→結果の評価および説明、といった流れで診療が進んでいきますが、医師が通常関わるのは、検査オーダーと評価および説明、という検査の入口と出口の部分です。生理機能検査における超音波検査のように、もとはと

いえば医師が検査の多くを行っていたものでも臨床検査技師が検査を行う機会が増加しています。そのような状況の中で検査をオーダーする医師は、検査を実際行う臨床検査技師がどのような事を行っているのかを知る機会が減っている気がします。心理的な距離も離れていくことが危惧されますが、まさにここで活躍するのが検査を専門とする医師であり、検査部医師は両者をつなぐ架け橋ではないでしょうか？現在勤務する施設では、高い専門性を持った臨床検査技師がたくさんおります。彼らの専門性には驚かされることも少なくありません。しかしながら、医師との役割の違いからその能力が生かし切れない部分もあります。役割の違う医師サイドの要求の本質を彼らに伝えるためにはある程度、検査そのものの知識も必要となります。検査学のカバーする領域は広く検査を専門とする医師でもすべての検査領域をスペシャリストとして網羅することは困難です。それでも今回の専門医試験を通じて、臨床検査技師と円滑なコミュニケーションを行うために必要な最低限の知識を習得できたのではないかと考えています。また、不十分ながらも一般的な検査行程やその過程で生ずる問題点を再確認することができたことは、一般診療を行う際においても、より高いレベルでの検査オーダーや結果の解釈に必ず役立つと確信しています。

まだまだ、臨床検査専門医としては未熟な私ですが、専門医の取得を今後のキャリアのスタートと考え、よりいっそうの研鑽をつんでいきたいと考えております。専門医会の先生方の御指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。最後に大学入職後ずっと指導いただいている村上先生をはじめとする先輩方、また臨床検査技師の皆様方に深謝申し上げます。  
(群馬大学医学部附属病院検査部 青木智之)

### 新人臨床検査専門医として

みなさま、はじめまして。高知大学医学部病態情報診断学講座の上岡樹生と申します。平成 27 年度から臨床検査専門医の仲間入りをさせて頂きました。私は平成 3 年に高知医科大学を卒業し、高知医科大学第 3 内科(現高知大学医学部呼吸器・血液内科)に入局しました。当時の教授は三好勇夫先生であり HTLV-I の研究が盛んな頃で、臨床に携わりながら主に血液関連の研究を進めておりました。その後、高知県立幡多けんみん病院に赴任し、呼吸器科医として働いていましたが、高知医科大学臨床検査医学教室の杉浦哲朗教授の教室にお世話になることになりました。ATL に関する研究論文で学位を取得し、今回臨床検査専門医に合格できました。今回の専門医申請に関してですが、カルテの電子化に伴い検査部のレポートも Dr.サインの手書き部分が少なくなり、正規のレポートへサインを入れるのに苦労しました。検査部長の名前がデフォルトで入ることが多く、基本システムを変えないと他のサインが入らないようで、問題点については今後システムの更新の際には変更が必要だと感じました。

現在が新専門医制度への過渡期であることは漠然と意識しながら今回受験をしたつもりでしたが、直後に基幹施設としてプログラムの作成を自分がすることになるとは考えていませんでした。私を含めた医師スタッフは呼吸器・血液・循環器・内分泌と内科系から臨床検査への転向であるため、初期研修後のフレッシュな専攻医を一から育てるようなプログラムと、その内容に沿った体制作りを構築するということは、他の臨床科と比較しても相当に困難であるということを実感させられています。学会の基本プログラム案をもとに専門研修基本プログラム整備基準を参考にしながら、自施設で可能な特色のあるプログラムにしようとしています。そんな中でも初期研修には現在も研修医は数人来てくれています。数か月間、超音波検査や細菌検査を研修してローテートに帰って

いきますが、当科の医師とはほとんど接する機会がないのが現状です。その間に臨床検査専門医としての姿を見せるべきなのでしょうが、基礎医学と臨床医学の狭間でその橋渡しを担うという役割をうまく演じるのは中々難しそうです。

私共の検査部も ISO 15189 を取得しましたが、検査技師の中だけでインシデント対応・精度管理などが完結してしまう傾向にあるため検査部医師の立ち位置が明確ではありません。今回の受験に際して私が検査技師長に対して進言し、半ば強引に検査部運営の会議へ割り込み、精度管理・検査システム等の参画に加わることになりました。そのため今年度は正式の委員ではなく、毎回レポートに「オブザーバー」で名前が載ることになってしまいました。新専門医制度を潤滑に運営するための是正項目は、今後少しずつ改善していきたいと思っています。検体検査管理加算 IV も私が専任医師で登録されていますので毎日検査部各部を回り日誌形式でインシデント等の記録を行っています。欠かさず毎日部内を巡回することで問題点・人間関係など様々なことが見えてくるようになりますが、これは先任者に入局時言われていたことでもあり、自覚を持ち行動して初めて見えてくるのだと懐かしく思いました。そして成果を独り占めするのではなくお互いに高めあいながら、これからの人たちを育てられるように努めたいと感じました。

(高知大学医学部病態情報診断学 上岡樹生)

### 基礎と臨床の架け橋を目指して

長崎大学臨床検査医学の宇野直輝と申します。基礎研究から臨床検査を志した者の一人として、簡単な自己紹介と抱負を述べさせていただきます。私の場合、留学先での解雇が臨床検査を志す転機となりました。形式上は日々研究に従事していましたが、アムステルダムの研究室で、私は完全に研究意欲を失っていました。雇用契約打ち切りが決定し、次の職を探すための猶予期間、私は将来を真剣に考えました。業績も意欲もありませんでしたから、基礎研究を続けることが困難であることは認識していました。研究から離れようと思いましたが、私から研究を引くと何が残るか考えました。アムステルダムで 2 回目の秋を迎えていました。休日にはよく妻と自転車で行きにいきました。遮るものがない広い空の下、私はその先の進路を考えていました。

卒後 2 年間は静岡の地域病院で多くの臨床経験を積みました。医師不足のためにその後破綻してしまった病院であったため、任せられる仕事と責任は大きかったです。この 2 年間の臨床経験は私にとって大変意義のある期間であり、臨床に繋がる現在の仕事を目指す動機になりました。

2 年間の研修の後、東大分子細胞生物学研究所に大学院生として入り、その後の Netherlands Cancer Institute でのポス

ドクを通して、一貫して癌の基礎研究に従事してきました。

基礎研究の知識と経験を臨床に活かすことが、自分のできる仕事であろうという結論に達してから、臨床検査が進路に定まりました。具体的な分野として、これからの臨床に求められる遺伝子検査を想定しました。それができそうな大学を調べてアプライし、幸い長崎大学に職を得ることができました。それが 5 年前です。以来、臨床に役立つ遺伝子検査技術の開発研究を続けています。3 年前に助教になり、遺伝子検査以外の臨床検査の勉強や、医学生や技師の教育及び研究に時間を割くことが多くなりましたが、研究は積極的に続けています。5 年前の目標の一つであった専門医も昨年なんとか合格することができました。現在は癌ではなく微生物の遺伝子検査の仕事が多いです。対象は違っても、分子診断技術は応用できます。今手元にオランダで開催される微生物の分子診断の研修に行くチケットがあります。5 年前、スキポール空港で日本行きの KLM に搭乗した時、夜に光る管制塔のライトを虚しく見ていたのを覚えています。妻は涙を流していました。今、3 歳の息子と 0 歳の娘がいます。いつか、家族で笑顔でアムステルダムを訪れる日を待ち望んでやみません。

(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学  
[臨床検査医学] 宇野直輝)

### 【編集後記】

新入会員の一覧にありますように、今年は例年よりも多くの新入会員の先生方をお迎えしております。新専門医制度を見据え、今後は臨床検査専門医試験の受験者が増えるのかもしれない。私は広報委員も兼任しておりますので、臨床検査専門医の仲間がもっと増えるよう、活動していきたいと思っています。

今号の巻頭言は、副会長の東條尚子先生にご執筆いただきました。イケメン病理医の登場する「フラジャイル」の宣伝効果は絶大で、とてもうらやましく思いました。新たに副会長になられた本田孝行先生には、「副会長挨拶」として、教育への取り組みについてご寄稿いただきました。

「会員の声」にご寄稿いただいた、青木智之先生、上岡樹生先生、宇野直輝先生は、平成 27 年度臨床検査専門医認定試験に合格された先生方です。例年、合格者の先生方には、「会員の声」ご寄稿の願いを送付させていただいております。皆様の貴重なご意見をいただければ大変ありがたく存じます。

ご寄稿いただいた先生方に、心より厚く御礼を申し上げます。厳しい暑さが続きますが、皆様ご自愛ください。

(編集主幹 東京大学医学部附属病院検査部  
増田 亜希子)

#### 日本臨床検査専門医会

会 長：登 勉、副会長：東條尚子(渉外委員会委員長)、本田孝行

監 事：高木 康、佐守友博

常任幹事：木村 聡(広報委員会委員長)、佐藤麻子(全国検査と健康展担当)、土屋達行(資格審査・会則改定委員会委員長)、古川泰司(保険点数委員会委員長)、三宅一徳(庶務・会計幹事)、宮崎彩子(ネットワーク運営委員会委員長)、盛田俊介(情報・出版委員会委員長)、米川 修(教育研修委員会委員長)

全国幹事：浅井さとみ、五十嵐雅彦、上原由紀、大澤春彦、萱場広之、久川 聡、紀野修一、ㄆ谷直人、長井 篤、中村文彦、橋口照人、日高 洋、増田亜希子、松下一之、村田哲也、柳原克紀、横崎典哉、和田隆志

情報・出版委員会：

委員長：盛田俊介

委 員：出居真由美、清水 力、信岡祐彦、福地邦彦、増田亜希子、吉田 博

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町 1 番地 第 3 東ビル 908 号

TEL：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110 E-mail：senmon-i@jaclp.org